第 20 回　ワークショップ検討タスク　議事録

1. **開催日時**　：2022 年 10 月 20 日（木）　10：00～12：00

2. **開催場所**　：Web 会議

3. **出 席 者**　（順不同，敬称略）

出 席 委 員：三浦主査(中部電力)，宇奈手(三菱重工業)，奥平(日立 GE ﾆｭｰｸﾘｱ･ｴﾅｼﾞｰ)，
杉村(日立 GE ﾆｭｰｸﾘｱ･ｴﾅｼﾞｰ)，西山(東芝ｴﾈﾙｷﾞｰｼｽﾃﾑｽﾞ)，堺(九州電力)，
鈴木直(中部電力)，奈良(北海道電力)，中條(中央大学)，
秋吉(原子力安全推進協会)，鈴木哲(中電ｼｰﾃｨｰｱｲ)　(計 11 名)

代理出席者：なし　(計　0名)

欠 席 委 員：仲村(東京電力 HD)　(計　1名)

常時参加者：なし　(計　0名)

説　明　者：なし　(計　0名)

オブザーバ：なし　(計　0名)

事　務　局：高柳，葛西，田邊（日本電気協会）　(計　3名)

4. **配付資料**

資料 No.20(1)-1　品質保証分科会 ワークショップ検討タスク 委員名簿 (案)
資料 No.20(1)-2　品質保証分科会 ワークショップ検討タスク 委員（出欠）
資料 No.20(2)　第 19 回 ワークショップ検討 タスク 議事録（案）
資料 No.20(3)-1　JEAC4111 ワークショップの企画に関する意見記載用紙
資料 No.20(3)-2　【纏め】JEAC4111 ワークショップの企画に関する意見記載
資料 No.20(3)-参考　第 13 回 JEAC4111 ワークショップについて（各委員回答）
資料 No.20(4)-1　日本電気協会でのオンラインセミナー開催実績（パンフレット）
資料 No.20(4)-2　日本電気協会でのオンラインセミナー開催実績（レイアウト図）
資料 No.20(5)　活動スケジュール案
資料 No.20(5)-参考 1-1 第 7 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム（方針）
資料 No.20(5)-参考 1-2 第 7 回 日本電気協会 原子力規格委員会シンポジウム プログラム
資料 No.20(5)-参考 2　第 7 回原子力規格委員会シンポジウム　準備スケジュール

5. **議　事**

事務局より，本タスクにて私的独占の禁止及び公正取引の確保に関する法律及び諸外国の競争法に抵触する行為を行わないことを確認の後，議事が進められた。

(1) 代理者承認，常時参加者，説明者，オブザーバの承認，定足数確認，配付資料の確認等 他

事務局より，出席数は 11 名の出席であり，タスクグループ規約第 9 条（決議）第 1 項で必要な決議条件（委員総数(12 名)の 3 分の 2 以上の出席）を満たしていることが確認された。その後，配布資料の確認があった。

(2) 前回議事録確認

事務局より資料 No.20(2)を用いて，前回議事録の紹介があり，正式議事録とすることについて Web の挙手機能により決議の結果，5 分の 4 以上の賛成で承認された。

(3) 第 13 回ワークショップについて（企画）

三浦主査及び各意見委員より，資料 No.20(3)シリーズを用いて，第 13 回ワークショップの企画テーマについて説明があった。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

・ 各委員の意見の説明を伺った結果，主査から説明があった「現状の課題」だけではと物足りないと思った。他の委員の回答に書いてある，「効果」をどのようにしていくのかと「解決の方向」を盛り込んではどうか。

・ それで良いのかも知れないが，「適用」を「活用」にしてはどうか。

→ 「活用」という意見は多数あるので，「適用」は「活用」として，「効果，課題と解決の方向性」を含んだ形でまとめてはどうか。

・ 各委員の意見には，「良好事例」という意見も多いと思うが，それを入れるならば副題のところだと思う。「良好事例を基にした効果，課題，その解決の方向性」とか，「良好事例を基にした」を入れるかどうか。副題があまり長くなるのも良くないか。

・ テーマの表題はあまり長くないほうがよく，その意見や意図が含まれているような，案内やプログラムにすることでよいと思う。

→ 「良好事例」は書かなくてもよいという意見か。

・ 表題はそんなに長くせずに，適用にするか活用にするかは別として，適用と課題についての中身については良好事例とかが含まれている趣旨で良いと考える。

・ 開催の目的に，「良好事例を基にした」というようなニュアンスを含めることで了解した。

・ 「解決の方向性」を核とするのは賛成であり，副題のところに書くか，目的のところに書くかは何方でもよいが，ワークショップの最後にパネル討論を実施するのであれば，そこで「解決の方向性」に関して知恵を出し合うような形になると思うので，それは重要なポイントであると思う。

→ 「解決の方向性」は，テーマの中に含めるか，開催目的のほうに含めるべきという意見で承った。

・ 他に意見がないようであれば，「JEAC4111-2021 の活用の現状～効果、課題と解決の方向性～」をテーマとし，「良好事例」を開催目的のところに盛り込み，ワークショップの全体

テーマとしたいと思うが如何か。

・ テーマ案はそれでよいと思うが，先ずはワークショップを実施するのかしないのか。ワークショップを実施するならば，主査から提案があった来年度の 4 月から 5 月にかけて実施するということと，テーマ案を決議するのか確認したい。

→ その通りに考えている。

・ 事務局だが，従来の実績から品質保証分科会にはワークショップの実施について報告するのみであり，品質保証分科会によってワークショップを実施するか否かの決議を行っておらず，ワークショップ検討タスクに決議するとワークショップを実施することが決まると考えている。

・ それでは決議を取りたいと考える。先ず第 13 回のワークショップを実施するということ，全体テーマ名「JEAC4111-2021 の活用の現状～効果、課題と解決の方向性～」とで決議を取りたい。

○ 特に異論がなかったので，2023 年度 4 月から 5 月にかけてワークショップを開催し，全体テーマを「JEAC4111-2021 の活用の現状～効果、課題と解決の方向性～」とすることに対して，タスクグループ規約第 9 条（決議）第 1 項に基づき，挙手による決議の結果，全員賛成で，承認された。

・ 次に講演テーマ，講演者の案について決めていきたい。同じようなテーマを纏めると，
1 つ目が「JEAC4111 の改定の意図」，
2 つ目が「パフォーマンスの向上」，
3 つ目が「リスク情報の活用」，
4 つ目が「安全文化に対するマネージメント及びリーダーシップ」，
5 つ目が「特定なテーマに絞るのではなく具体的事例の展開状況」，
6 つ目が「構成管理」，
7 つ目が「RIDM の原子力学会との概要と適用例等」
がある。この中で 1 つ目のテーマは全般論として「JEAC4111 の改定の意図」があり，2 つ目，3 つ目，4 つ目が，テーマに関して各委員から多く頂いた意見と考えている。この中で主査としては，JEAC4111 の全般を扱う意見に対しては，2021 年度版の改定の意図を 1 つのテーマとして挙げたいと考えている。それから RIDM，リスク情報の活用についても重要なテーマであるので候補の 1 つとしたいと考えている。もう 1 つリスク情報の活用については，事業者だけでなくメーカの取り組み状況も含めて進めることができるのではないかと考えている。もう 1 つ変更管理がテーマとしてはよいので，どちらかというとメーカにお願いしたいと考えている。安全文化に関しては，安全文化のテーマはそれだけで 1 日かけても足りないため，システミックアプローチについて講演いただくことでよいと考えている。

・ 一方，比較的に沢山の意見を頂いている，パフォーマンスの向上については，考慮事項とし

て重複を避ける意味から，JANSI 主催の作業会で過去何回かパフォーマンスの向上については議論を実施しており，事業者の取り組み状況も変わってきているところもあるため，今回のワークショップテーマとしては避けたいと考えている。

・ 以上，主査の意見を纏めると「JEAC4111-2021 改定の意図」，事業者及びメーカの「RIDM」，メーカ主体になると思われる「変更管理」，安全文化の関係で「システミックアプローチ」を JANSI にお願いしたいと考えている。

・ 「システミックアプローチ」というのは，JANSI でもこういう考え方でこういうことをすればよいという捉え方をするが，本質的な所に一旦遡らないと，人によって理解が異なっていると思われる。システムというのは非常に広い概念なので，何を実施してもシステムに該当するため，これを柱としてやっておかないと，皆バラバラになって効果的でないのかと思い「システミックアプローチ」を提案した次第。QMS においては安全文化も関係するし，QMS をよりよく実施していくには，システミックな考え方が大事なのではないかと思っている。講演者の都合もあるので，それに合わせて実施してもらえば良い。

→ 「システミックアプローチ」を入れるという意見でよろしいか。

・ その通りである。他のテーマにも繋がるし，QMS 的にも繋がるので，「システミックアプローチ」は扱ってもよいと考えている。

・ 私も安全文化は，何かテーマにできたらと思いつつも，大きな議題になってしまう思っていたので，今の説明のように「システミックアプローチ」から安全文化に繋げていくということで賛成である。

・ 主査の提案については賛成であり，多数意見的に「リスク情報の活用」とか，「RIDM」は取り上げるべきだと思う。その次に「安全文化」とか「システミックアプローチ」が結構皆さん提案しているので，これも取り上げたら良いのではないか。先ほど議論があったように「安全文化」というよりは「システミックアプローチ」として切り込んでいくのがよいということ，これは良いと考えている。後もう 1 つ位何かを取り上げるかとした場合には，「パフォーマンスの向上」，「変更管理」とかがあるが，先ほど主査から説明あったように「パフォーマンスの向上」は重複感があるということだとすると，「コンフィギュレーション管理」を取り上げるのが良いか思う。

・ 「改定の意図」以外で，小テーマとしては 3 つぐらいが良いと考えている。

・ 一通り意見を伺ったため，全体の説明として「JEAC4111-2021 改定の意図」，小テーマとして RIDM については「リスク情報の活用」と「変更管理」，安全文化については「システミックアプローチ」の 3 つとすることにしたい。

・ テーマが決まったので，何方にお願いするのかを決めておいた方が良いかと考えているが如何か。

→ 決められるところは決めた方が良い。

→ 開会挨拶は品質保証分科会長が行い，パネルディスカッションの司会も品質保証分科会長が行うとしたならば，「JEAC4111-2021 改定の意図」は検討会主査。もしくは改定時点の検

討会主査が良いのではないか。

→ 「JEAC4111-2021 改定の意図」については鈴木哲委員にお願いしたい。

→ 拝承した。

・「システミックアプローチ」は JANSI にお願いしたい。

→ 「システミックアプローチ」を JANSI 内で確認して受けて頂けそうであるが，講演にはある程度の時間が必要になることのことであった。

・「リスク情報の活用」は事業者，「変更管理」はメーカにお願いしたい。

→ 「変更管理」について，メーカ委員間で別途，確認した上で引き受けられるか回答させて頂く。

・パネルディスカッションについては，テーマに合わせて担当者を決めることを考えている。

・原子力規制庁にはワークショップ開催，パネルディスカッション参加について声がけした方が良い。

・最後の挨拶を三浦幹事にお願いして良いか。そうしたならば，パネルディスカッションに参加されると流れが自然だと思うが如何か。

→ 拝承した。

・他のパネルディスカッション参加者等については今後検討していくこととする。

・パネルディスカッションについては講演内容に関連したことに対してディスカッションすると考えているが，あるいは講演のテーマとは離れたところをディスカッションするのか，意見をお願いしたい。

・前半の講演で 3 つの個別テーマを実施するということなので，基本的には 3 つの個別テーマを論点として議論を実施し，何かあればプラスするのだと思う。

・３つの個別テーマについて議論し，最後に全体について議論すると考えている。

・今の意見に従って進めたい。

(4) 第 13 回ワークショップについて（開催時間・形態）

三浦主査及び日本電気協会 事業推進部より，資料 No.20(4)-1 及び資料 No.20(4)-2 に基づき，第 13 回ワークショップの開催時間及び形態について説明があった。

主な説明は下記のとおり。

・ワークショップ開催の時間や形態について，開催時間として 1 日かけるのか，半日で実施するのか，形態としては集合形式で実施するのか，オンラインで実施するのかということである。頂いている回答からは半日でオンライン開催，オンラインと会場開催のハイブリットがあった。

・開催時間については 1 日開催か，半日開催かということに関しては，意見としては半日ということなので，午後いっぱいの半日で良いと考えている。

・開催形態についてはオンライン開催にした場合，完全オンライン開催か，講演者が参加でき

る範囲は対面で実施するかということである。先ほど事務局から説明があったが，原子力規格委員会シンポジウムでは，第 7 回は座長だけ現地に来て頂き，第 8 回は講演者だけ集まって行う計画ということで，そのような形態が良いと思う。

- 事務局から，オンラインや過去に対面も実施しているので，実績について説明したい。事業推進部では 8 月に電気関係事業安全セミナーを行い，講演と，パネルディスカッション，その他講演，研究発表などがあった。全体で 7 時間ぐらいのセミナーになったが，1 ケ月半の期間でオンデマンド配信する形で行った。その中のパネルディスカッションのみライブ配信で実施しており，それを収録しオンデマンド配信でも視聴可能という形にした。Zoom ウェビナーを使用して，チャットとか QA を使用して，意見質問を頂きそれを基に議論を展開したという形になっている。このパネルディスカッションの実施に関して，日本電気協会の会議室ではネットの回線が適していない可能性があることと，講師の方々が全員集まった状態で音声を奇麗に録音することが，電気協会で所有する機材では難しかったため，ライブ配信の運営・収録に関しては専門業者に委託している。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

- 今の議論をまとめると，先ずオンライン開催するとした際に，聞く人は全員オンラインで，講演していただく人もオンラインなのか，講演する人のみが会場に来るのか 2 択があり，後者のパターンだと，やや広めの会議室と安定した通信環境がないといけないので，日本電気協会の会議室では難しいということと，音声を良く拾うためにも日本電気協会としては外部委託となるということである。仮に，講演する人も全員 Web にするとした場合には，皆さん Web 会議で実績を積んでいるので大丈夫な様な気もするが，相手方の通信環境に影響して，通信上のトラブルがあり得るため，リスクを低減するならば，講演して頂く方には集まって頂くのだと考える。講演する方，受講者がより良い環境で進めるのが望ましいので，その辺を踏まえて決めてもらえばと思っている。
- 司会進行を実施する方及び規格改定の意図を説明する方以外には，講演者は現状決まっていない状態であるが，講演者としての立場も含めてどういう形式が良いのかということを議論して頂きたいと思う。パネルディスカッションについては，会場に集まって実施した方がタイムラグなく議論できると思う。
- 昨年度の原子力規格委員会のシンポジウムは，コロナ情勢が悪かったので委員長のみ会場にお呼びし，副委員長も会場にてご参加頂きつつも，他の方たちは Web 出席をお願いして行ったが，ディスカッションで議論できなかったかというと，そういうことも無かったので，考えなくてはいけないのは通信トラブルだけと考えている。
- これらの状況は，来年開催される 4 月から 5 月の状況において最終的に判断する必要があるとは思うが，先ほど主査から説明あったように，パネルディスカッションのような部分は集まって実施した方が良いかと思う。
- 基本的には，パネラーは現地に集合して実施した方が良いと思う。

・ パネルディスカッションを実施するためであれば，むしろ各々がオンラインの方が実施しやすいのが実態と考えている。今のところパネラーの方が 4 名，座長を含めて 5 名，外部の方も含めると 7，8 名ぐらいになる。そうすると音声をちゃんと拾うのは結構大変な気がしていて，そういう意味だと完全にパネルディスカッションをするということであると，完全にオンラインの方がやりやすい気がする。ただ回線がトラブルリスクもある訳で，そういう意味で 1 ヶ所に集まるというのは 1 つの考え方だとも思う。
・ パネルディスカッションのみの参加の方にはオンラインということを考えた方が良いかもしれない。
・ パネルディスカッションと講演に参加される方については，集まっていただくのが良いと思う。当社の場合にも回線が遅延が生じたりする場合があるので，講演を行う，あるいはパネルディスカッションを行うことであれば，一か所に集まっていた方が良いと思う。
・ シンポジウムの場合だとリアルタイムなので見に来る人もいて，現地会場も準備するとなると大きな会場と収録の二重の手間が必要となる。
・ そのほか意見がないようであれば，聴講者はオンラインだけの形としたい。講演者とパネラーについては，最終的には来年開催される 4 月から 5 月の状況を考慮しつつも，講演者とパネルディスカッションをする人は会議室に集合，パネルディスカッションだけに出席して頂く方についてはオンラインの出席をして頂くような形としたいと考える。
・ 事業推進部として，一番心配しているのは音声であり，一か所に集まる場合には，専門の場所に集まらないと無理ということもあり，集まるのであれば講演者とパネラーは全員に集まってもらい，オンラインで実施するのであればファシリテーターを除き全員オンラインが良い。その中間の様な違うパターンで実施するとネックとなる部分があること，了承して頂きたい。
・ 事務局だが，会場の広さ等は受講料等に影響あると思うが，基本的には要望に応じられると考える。
・ 今日の議論を考えると，講演される方及びパネルディスカッションをする方は，現地集合をすることを基本とすることで考えたいと思う。

(5) 第 13 回ワークショップについて（スケジュール）

事務局より，資料 No.20(5)シリーズに基づき，第 13 回ワークショップのスケジュールについて説明があった。

主な説明は下記のとおり。

・ 次回のワークショップについては，原子力規格委員会シンポジウムと同じような規模感になっているため同様の準備期間になると考えている。
・ 原子力規格委員会のスケジュール感は，資料 No.20(5)-参考 2 に示すように，2021 年 10 月に実施に向けて，テーマ等について時間をかけて議論したが，テーマ等が決まってからは 3

ケ月程度で資料を作成して頂き開催している。よってワークショップも，テーマ等が決まりそうなので，3 ケ月程度あれば可能であると思っており，概要を品質保証分科会に 2023 年度の 4 月から 5 月の間に実施するという報告するのだと思っている。

主なご意見・コメントは下記のとおり。

・ 特になし。

(6) その他

次回ワークショップ検討タスクは 1 ヶ月後ぐらいに実施することとする。

以　上